

4

EFFORTS FOR REGISTERING NATURAL WORLD HERITAGE

世界自然遺産登録に向けた取組

奄美群島では、自然を守り、地域の活性化につなげるための様々な取組が行われています。

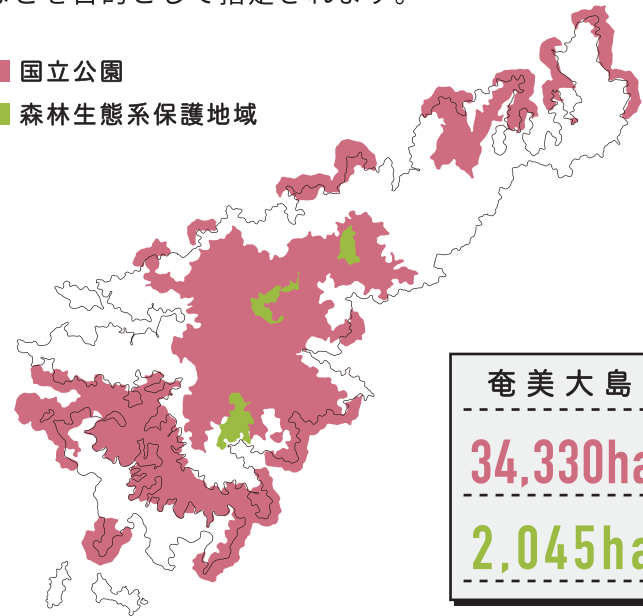
保護地域の指定

国は、世界遺産の価値がある豊かな自然を将来にわたって守っていくために、遺産地域となる森などを国立公園や森林生態系保護地域に指定しました。

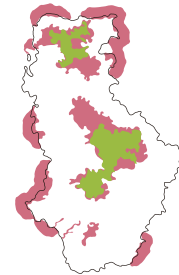
国立公園は、自然公園法に基づき指定される日本を代表する自然の風景地です。大規模な開発などが規制され、自然とのふれあい活動が進められます。

森林生態系保護地域は、国有林の保護林の種類の一つです。自然環境の維持や野生動植物の保護などを目的として指定されます。

- 国立公園
- 森林生態系保護地域



Quiz 4
奄美大島と徳之島で、大陸や日本本土と切り離された後も環境の変化に対応して生き残った動物は、次のうちどれですか？
①ヤンバルクイナ ②アマミノクロウサギ ③イリオモテヤマネコ
答えは裏表紙の下部にあります。



保護地域内で見られる生き物たち



アマミノクロウサギ アカヒゲ オビトカゲモドキ アマミイシカワガエル

写真提供：環境省 奄美自然保護官事務所、徳之島自然保護官事務所

COLUMN 03

ハブは鹿児島県の奄美大島、徳之島、沖縄県の沖縄島（沖縄本島）とその周辺の島々にすんでいます。猛毒で恐れられるハブは、毒ヘビの中でも非常に大型のヘビで、体長は1~2mもあります。広い範囲に生息し、原生林の山頂部から海岸の磯、砂浜などの波打ち際までのすべてが活動範囲で、畑や集落の中にも出てきます。

また、ハブは、すんでいる島ごとに少しずつ色や形、毒の成分が違ってきます。ハブの毒については、その成分を決める遺伝子が島によって違うこともわかってきました。普通、離れた地域の間で同じ種の動物の姿かたちには違いが現れるには300万年位かかるといわれていますが、ハブの場合、通常のスปีド以上に遺伝子の変異が起り、それが積み重なって100万年~200万年で変化が起っています。



奄美大島のハブ



徳之島の赤ハブ

写真提供者：服部正策

外来種の対策

マングースは元々奄美大島にはいませんでしたが、ハブやクマネズミを減らすことを目的に持ち込まれました。しかし、期待していた効果は得られず、アマミノクロウサギなどの島の貴重な生き物たちが格好の標的となりました。そこで2005年、環境省はマングースバスターズを結成しました。マングースバスターズが行うわなによる捕獲作業は大きな成果をあげています。

写真提供：環境省 奄美自然保護官事務所



ペットとして飼われていたネコが捨てられるなどして野生化し、野生動物が襲われる被害が発生しています。そのため、奄美大島と徳之島では、野生化したネコを捕獲し、新しい飼い主を探す取組を進めています。また、ペットのネコを適切に飼育する内容の条例を定めたり、飼い主のいないネコを増やさないための取組も行っています。

写真提供：環境省 奄美自然保護官事務所

Quiz 5
奄美でアマミノクロウサギをえさにするなどで問題となっている動物は次のうちどれですか？
①キツネ ②サル ③ネコ
答えは裏表紙の下部にあります。

利用のルールづくり

世界自然遺産に登録されると、自然に親しもうとたくさんの方が訪れます。しかし、1つの場所にあまりに多くの人があると、植物が踏み荒らされて傷んだり枯れたりするなどの問題が起ってしまいます。このようなことが起きないように、森の中に入る人数を制限したり、ガイドと一緒に入ることを義務づけるなどの利用のルールづくりが進められています。



エコツーリズムの推進



エコツーリズムとは、ガイドによる案内を受けながら、自然や自然と人との関わり、地域に伝わる生活文化などと深くふれあう旅の形です。奄美群島では、エコツーリズムに関する構想づくりや、エコツアーガイドの育成などが進められています。

奄美トレイルのコース選定



トレイルとは、自然や畑、集落の中などを通る歩く道のことで。奄美群島の島々の魅力にゆっくりと触れる機会を提供するために、群島をつなぐ奄美トレイルのコース選定が進められています。

自然環境に配慮した公共事業の推進



道路や橋、港などの公共事業は、人々の生活を便利にしてくれる重要な事業です。工事による奄美の自然への影響が最小限になるよう指針を作成し、その指針に基づいて公共事業を進めています。